



木津川沿い山背古道散策⑤（山城多賀～長池）報告書

2021年11月28日に始まった木津川沿い山城古道散策も今回で5回目、とうとう終了となりました。（ちょっと寂しい？）天候にも恵まれ暑いほどでしたが全員元気で歩き通しました。ちなみに山背古道とは、古来からある名前ではなく京都と奈良を結ぶ古道を基に、平成7年に城陽市、井手町、木津川市の3つの市町にまたがる全長25kmの散策道路として定められた道を指します。

日時：3月9日 晴れ

集合：JR 奈良線 山城多賀 10時45分

参加者：浅野、伊藤春、大石、金高、権野、西井、秦、福嶋明、福嶋昭、万井、空三、森、山本、山下、倭 以上15名

10:50 出発 ホタル公園めざす

11:15 高神社 参道の階段往復。本殿は桃山時代。灯籠は慶長13年 複雑な社伝があり、詳細不明

12:10 市辺天満神社 祭神は菅原道真、由緒不明

12:30 龍福寺 浄土宗。歯痛地藏尊(左手で頬を押さえる仕草の地藏菩薩でお姿から名前がついた)

12:35 中天満神社 旧中村の産土(うぶすな)神で、祭神は菅原道真。中村は歴史の古い集落で、平安時代に編集された和名抄にその名がのこされている。1867年のおかげ踊りを描いた絵馬が拝殿の正面に。

黒土古墳;神社周辺の斜面に10基からなる古墳が存在し、黒土古墳とよばれている。6世紀中ごろ?

12:50 「山の神」を祀る三の口(写真)を見て、青谷梅林に到着。ほぼ満開。梅林の起源は不明。およそ20haの広さ。城州白という梅が有名で梅まつり開催中、梅の木の下で宴会する団体(シニアが多い)を見かけた。(集合写真、梅飾りはありませんが)

梅の花 いま盛りなり 思ふどち かざしにしてな 今盛りなり一筑後守葛井太夫 万葉集一

13:40 出発

14:20 御菓子司 松屋 宿場町長池宿の元旅籠。奈良鉄道の開通(明治29年)で衰退し、菓子司に。長池宿の資料展示。お土産を買い求める。

14:35 長池宿碑 南 奈良街道 是北 京都街道

14:45 JR 長池駅解散 駅前に人工の池があり、長池の大蛇伝説案内あり。

駅の近く、城南市の西縁を南北に貫流する木津川を望む台地の上に、縄文時代から古墳時代にかけての集落遺跡である**森山遺跡**があるが、現在はただの公園だけなので今回見学はスキップしました。



今までの山背古道シリーズを振り返ります。

- ① 2021年11月23日 木津から上狛: 泉橋寺(行基が造営したといわれている)。五輪塔(鎌倉時代の供養塔)
- ② 2021年12月16日 上狛から棚倉: 椿井大塚山古墳(3世紀後半、古墳時代前期。三角縁神獸鏡が出土) 涌出宮(境内全域が弥生時代の集落跡。いごもり祭で有名) 谷山不動尊(3体の石の魔崖仏、鎌倉後期、室町時代)
- ③ 2022年3月17日 棚倉から玉水: 蟹満寺(680年代に建立、釈迦如来像で有名) 高倉神社(平安時代末期の以仁王を祀る) 六角井戸(橘諸兄の邸宅の跡、諸兄は奈良時代に聖武天皇のもとで左大臣を務め、万葉集の編者)
- ④ 2022年7月21日 玉水から山城多賀: 井堤寺跡 井手町文化財展示室 熱波のため後半をカット
- ⑤ 2023年3月9日 山城多賀から長池: 今回は前回スキップした高神社からのスタート

こうして振り返ると縄文後期から弥生時代、古墳時代から明治まで、木津川に沿って変遷の歴史を見てきました。古来から人は川のそばに住まい、自然の恵みと厳しさに直面し、おそれと畏敬の念をもって接してきました。現在の我々は開発という名のもとに自然を破壊し、軽んじています。今後我々の世代は将来に何を残すのでしょうか？

写真;福嶋昭治さん 文責:倭 なおこのシリーズの全企画は浅野さんです。